



一般社団法人 長野県植物防疫協会

〒380-0837
長野市大字南長野字幅下667-6
長野県土木センター内
電話 026-235-3510
FAX 026-235-3583

目次
◇令和8年農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点... 1
◇DMI剤に偏重しない日本なし「幸水」の新たな薬剤防除体系... 4
◇ドローン散布による穂いもち病と斑点カメムシ類に対する防除効果... 5
◇植防短信 長野県農業安全コンサルタント協会総会開催される... 7
◇地域情報 松本... 7 北アルプス... 8
◇協会だより... 8

令和8年農作物病害虫・雑草防除基準の主な改正点

農業技術課 副主任専門技術員 横澤志織

令和8年2月に発刊された「令和8年農作物病害虫・雑草防除基準」の主な改正点を下記にまとめた。なお、紙面の都合上、農薬登録変更に伴う使用基準（使用時期や使用回数など）の変更に関する記載は省略した。農薬の使用に際しては、最新の農薬登録内容をご確認いただきたい。

【農業試験場病害虫防除部ホームページ】

◆令和8年病害虫雑草防除基準

https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/nouyaku/bojokijun/index.html

◆登録内容変更一覧（冊子発行後の修正点）

https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/index.html

1 全体に係る改正点

(1) 掲載品目の整理

昭和35年の「病害虫防除基準」発行以降、振興品目の増加や要望をうけて防除基準の記載は年々増加し、情報が煩雑となっている。また、近年はインターネットにより農薬登録情報を手軽に入手可能で、網羅的に情報を記載する必要性が低下していることから、掲載品目の整理を行った。

表1 掲載品目の整理の内容

Table with 2 columns: 内容, 品目. Content includes '別冊に移行 (Web公開)' and '掲載終了' with corresponding plant/pest names.

※ 桑、茶は以前から別冊。

(2) 項目名の変更

令和7年度版までは項目名が「普通作物」となっていたグループのうち、水稻・麦類・そばについては、農薬登録上の大作物群との整合性をとるため項目名を「穀類」とした。一方で、スイートコーン・だいず・いんげんまめについては、生産振興上の分類と農薬登録上の大作物群が一致しないことから、使用者の誤認を防ぐ目的で、項目名を「その他普通作物」とした。

表2 項目名の変更の詳細

Table with 4 columns: 品目, 農薬登録上の大作物群, 旧項目名 (令和7年版まで), 新項目名 (令和8年版より). It details the reclassification of crops like rice, wheat, and soybeans.

※ 「トウモロコシ」は収穫時期の違いにより、農薬登録上は異なる作物名となる。このうち「とうもろこし (子実)」と「未成熟とうもろこし」の大作物群は穀類 (中作物群はとうもろこし) で、「ヤングコーン」の大作物群は野菜類である。

(3) 有機銅剤の果樹における登録変更見込に係る対応

令和 8 年春頃に有機銅剤およびその混合剤の登録内容が変更となる見込みであることから、以下のとおり記載を変更した。

表 3 記載の変更内容

品 目	農 薬 名	登録変更内容	防除基準における対応
りんご	オキシンドー水和剤 80 キノンドー水和剤 80	適用作物（りんご）削除	削除
	オキシラン水和剤	希釈倍数の変更、適用病害一部削除	削除
なし	オキシンドー水和剤 80 キノンドー水和剤 80	希釈倍数の変更、使用前日数の変更	削除
	キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル	使用前日数の変更	「二十世紀」、「南水」：変更なし 「幸水」：7月下旬より削除 「豊水」：変更なし （西洋なし：掲載なし）
	オキシラン水和剤	使用前日数の変更	「二十世紀南水」：削除 「幸水」、「豊水」：変更なし 西洋なし：8月中旬より削除
マルメロ	キノンドー水和剤 80	適用作物（マルメロ）削除	削除

(4) 失効農薬等の削除

令和 7 年 11 月 30 日までに失効した農薬については記載を削除した（表 4）。また、流通量の少ない水稲除草剤 9 剤を削除した（記載省略）。

表 4 失効により削除した農薬（順不同）

サーガ水和剤、バフラン液剤 25、ポリバリン水和剤、サイアノックス水和剤、トレボンサーフ、ラビキラー乳剤、グラスジン M ナトリウム粒剤、ライジンパワーフロアブル、ワンオール S 1 キロ粒剤、粒状水中 MCP

2 その他の改正点

各品目の本文（防除方法が記載されている箇所）の改正点は表 5、6 のとおりである。なお、「防除時期」とは防除適期に関する記載であり、適用の「使用時期」の範囲内ではあるものの、記載が異なる場合があることに留意する。

表 5 殺菌剤・殺虫剤に関する改正点

作物名	対象病害虫など	改正	内 容	理 由
水稲	紋枯病	追加	インピルフルキサム 2% 含有箱粒剤（アレスモンガレス箱粒剤など。育苗箱 1 箱当たり 50g）	R 7 農薬情報
	いもち病（葉）		ミネクトブラスター顆粒水和剤（200倍、育苗箱 1 箱当たり 0.5 L）	R 6 農薬情報
	イネミズゾウムシ		ミネクトブラスター顆粒水和剤（200倍、育苗箱 1 箱当たり 0.5 L）	
	イネツトムシ		ミネクトブラスター顆粒水和剤（200倍、育苗箱 1 箱当たり 0.5 L）	
	いもち病（穂、節）		コラトップ豆つぶ（10a あたり 250g）	
	もみ枯細菌病（穂枯症）		ジクロベンチアゾクス 2% 含有粒剤（ブーン粒剤など、育苗箱 1 箱あたり 50g）	R 7 農薬情報
	カメムシ類（斑点米）		ダブルカットトレボンフロアブル（1,000倍）	R 6 農薬情報
			ブラシフロアブル（1,000倍）	
飼料用イネ	全体	変更	農林水産省 HP「発酵粗飼料用稲（WCS用稲）に使用できる農薬について」リンク掲載	
だいず	紫斑病	追加	ニマイバー水和剤（1,000倍）	R 6 普及技術
			プランダム乳剤 25（3,000倍）	
			アゾキストロビン耐性ダイズ紫斑病菌に関する注意事項	
りんご	ユキヤナギアブラムシ	変更	重要防除時期を「6月上旬頃」から「落花10~14日後」に変更	R 6 技術情報
	褐斑病		重要防除時期を「7月上旬頃」から「6月下旬頃」へ変更	
	スモモヒメシクイ		重要防除時期を「8月上・中旬頃」から「7月中・下旬頃」に変更	
なし	5月 前回より7日後	追加	DMI剤耐性菌に関する注意事項を記載（効果が期待できる他系統の殺菌剤との混用など）	R 7 技術情報
	5月下旬	変更	オリオン水和剤 40 を「りんぼう脱落直前」から「5月下旬」に移動	
(1) 「二十世紀」・「南水」	6月下旬	追加	「カメムシ類の多発園では使用回数に注意し、殺虫剤（別表-2-1）を散布する。」	
	8月上旬	削除	注意事項よりストロビードライフフロアブルを削除	有機銅剤の登録変更に伴う対応
	9月上旬		ストロビードライフフロアブル（2,000倍）	

(2)「幸水」 ・「豊水」	4月 開花直前	追加	ユニックス顆粒水和剤 (2,000倍)	R 7 普及技術		
	4月 開花直前 5月 落花直後		DMI剤耐性菌に関する注意事項 (効果が期待できる他系統の殺菌剤との混用など)			
	「幸水」果実肥大期の黒星病防除対策		・果実感染の重要防除時期は6月中旬～7月上旬。 ・ストロビードライフロアブル (3,000倍)、スクレアフロアブル (3,000倍)、カナメフロアブル (4,000倍)、ミギワ20フロアブル (4,000倍) のいずれかを散布する。 ・同系統薬剤の年間使用回数に注意する。			
	6月下旬	変更	ナリアWDGから、スクレアフロアブル (3,000倍) に変更	有機銅剤の登録 変更に伴う対応		
	7月下旬		「幸水」はストロビードライフロアブル (2,000倍)、「豊水」は有機銅フロアブル (1,000倍)、オキシラン水和剤 (500倍) のいずれかを散布する。			
	8月上旬		「豊水」のみベルコート水和剤 (1,000倍)、フロアブル (1,500倍) を散布する。			
(3)「西洋なし」	5月下旬	削除	ストロビードライフロアブルを削除			
	8月中旬	追加	無袋栽培の晩生種では9月上旬にストロビードライフロアブル (2,000倍)			
ぶどう	落花直後	削除	ジャストフィットフロアブルを削除		R 7 農薬情報	
	落花直後	追加	オリオン水和剤40 (1,000倍)			
	別表-3		コテツフロアブル (ブドウサビダニ)			
	別表-3		ファインセーブフロアブル (ブドウサビダニ)			
(1)「巨峰」	落花直後、袋かけ直後	追加	発生病害虫名にブドウサビダニを追加	R 7 農薬情報		
(2)「デラウェア」	6月中・下旬頃	追加	パダンSG水和剤 (1,500倍)	登録拡大		
(3)「加工用ぶどう」	6月中旬、7月下旬～8月上旬		パダンSG水和剤 (1,500倍)			
もも、ネクタリン (共通)	5月下旬、6月上旬、6月中・下旬		ICジンク水和剤 (1,000倍)		R 7 農薬情報	
(もものみ)	6月中・下旬	変更	シンクイムシ類を防除重要病害虫に変更			
(ネクタリンのみ)	別表-3	追加	ファインセーブフロアブル (ミカンキイロアザミウマ)	R 7 農薬情報		
	落花後、落花10日後	変更	マイコシールドから、アグレプト水和剤 (1,000倍) に変更	登録拡大		
ブルーベリー ・日本すもも	5月下旬、6月上旬	削除	デランフロアブルを削除			
	スモモヒメシンクイ防除対策	変更	第3世代の発生時期が7月下旬～8月中旬、第4世代が8月下旬～9月下旬である旨の記載			
野菜類	別表-1	追加	エクシレルSE (シンクイムシ類)	R 7 農薬情報		
	ハダニ類	追加	フーモン (1,000倍)	R 6 農薬情報		
きゅうり	炭疽病		テーク水和剤 (600倍)			
キャベツ	黒斑病		カンタスドライフロアブル (1,500倍)			
	黒斑細菌病		ファンタジスタ顆粒水和剤 (2,000倍)			
	コナガ		クプロシールド (1,000倍)			
カリフラワー	黒すす病		フィールドマストフロアブル (4,000倍)			
ブロッコリー	軟腐病		メジャーフロアブル (2,000倍)		R 7 農薬情報	
			バリダシン液剤5 (800倍)			
レタス ・非結球レタス (共通)	すす枯病		マイコシールド (2,000倍)		R 6 農薬情報	
	アブラムシ類		バリダシン液剤5 (800倍)			
(レタスのみ)	アザミウマ		セフィーナDC (4,000倍)			
セルリー	疫病		追加		ファインセーブフロアブル (1,000倍)	R 6 技術情報
			ハダニ類		育苗ポットなどの消毒に関する記載 (ケミクロンGの500倍液に瞬間浸漬、1,000倍液に10分間浸漬、または資材消毒剤イチバンの500倍液に瞬間浸漬処理)	
			サンクリスタル乳剤 (300倍)			
アスパラガス	アザミウマ類		フーモン (1,000倍)		R 6 農薬情報	
			ファインセーブフロアブル (2,000倍)			
ネギ	葉枯病		重要防除時期 (概ね収穫1か月前～収穫直前) など、防除方法に関する記載		R 6 試行技術	
	ネダニ類		D-D剤 (DC油剤、D-D、テロン)			
無人航空機 水稻	カメムシ類		スタークル液剤10 (8倍)		R 6 農薬情報	

表6 除草剤に関する改正点

作物名	対象雑草	防除時期	改正	改正内容	改正理由
水稻	雑草イネ、一年生雑草、ホタルイ	植代後～移植前7日まで又は移植直後～ノビエ1葉期 (但し、移植後30日まで)	追加	スタメンフロアブル	R 7 農薬情報
	雑草イネ	移植直後～ノビエ2.5葉期 (但し、移植後30日まで)		ラオウ1キロ粒剤	
そば	一年生雑草	播種後出芽前 (雑草発生前)		ロロックス	R 6 農薬情報

DMI剤に偏重しない日本なし「幸水」の新たな薬剤防除体系

南信農業試験場栽培部 萬田 等

1 背景・ねらい

日本なし「幸水」は、早生・良食味の優良な特性を有し、県内で多く栽培されている。一方で「幸水」はナシ黒星病（図1）にかかりやすいため、本病の防除対策が必須となる。DMI剤（FRACコード3、スコア、オンリーワンほか）は、これまで黒星病の基幹防除薬剤として主に開花期に使用されてきた効果の高い殺菌剤だが、2015年に一部のDMI剤でナシ黒星病に対する防除効果の低下が確認され、黒星病多発の一要因となっている。そこで、DMI剤とは異なる系統の、複数の殺菌剤を組み合わせた新たな薬剤防除体系を開発し、普及技術として公表した。



図1 ナシ黒星病（「幸水」幼果、葉）

2 技術の内容

- (1) ミギワ20フロアブル、ユニックス顆粒水和剤、カナメフロアブルは、黒星病の感染後に薬剤を散布しても発病を抑制できる治療効果がある（表1、図2）。
- (2) 「幸水」の開花直前にミギワ20フロアブルの4,000倍液またはユニックス顆粒水和剤の2,000倍液、落花直後にカナメフロアブルの8,000倍液を組み合わせる新たな防除体系は、同時期にスコア顆粒水和剤（DMI剤）を散布する従来の防除体系に比べて、生育期間を通してナシ黒星病の被害を少なく抑えられる（表2）。これを反映した、推奨する「幸水」の新たな防除体系は表3のとおりである。

表1 開花期の使用が想定される殺菌剤の効果特性

防除薬剤 希釈倍数	系統 FRACコード	ナシ黒星病	
		予防効果	治療効果
ミギワ20フロアブル 4,000倍	DHODHI剤 52	◎	◎ 感染約7日後まで
ユニックス顆粒水和剤 2,000倍	AP剤 9	◎	◎ 感染約2日後まで
カナメフロアブル 8,000倍	SDHI剤 7	◎	◎ 感染約8日後まで

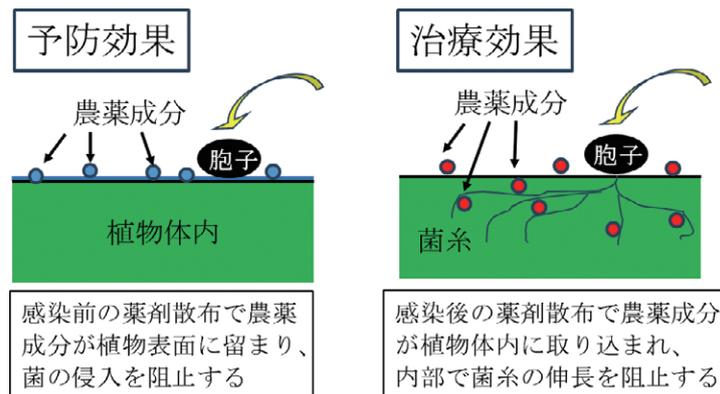


図2 殺菌剤の予防効果と治療効果(模式図)

表2 ナシ黒星病に対する薬剤防除体系の効果（2022年、南信農業試験場）

処理区	果そう葉（6月7日）			幼果（6月7日）		収穫期果実（8月23日）		
	調査 葉数	発病 葉率 (%)	発病度	調査 果数	発病 果率 (%)	調査 果数	発病 果率 (%)	果当 病斑数 (個/果)
①新たな防除体系	230.0	0.2	0.0	134.0	0.4	115.3	2.9	0.1
②従来の防除体系	211.7	15.6	3.1	117.7	14.3	92.7	28.3	0.8
③無処理	223.0	48.5	11.0	151.0	39.6	(39.3)	(98.9)	(26.9)

①新たな防除体系：開花直前にユニックス、落花直後にカナメ ②従来の防除体系：開花直前及び落花直後にスコア（DMI剤） それ以外の時期は同一の防除を実施。収穫期果実の調査の無処理区は、黒星病による落果で調査果数が少なくなったため参考データ扱い。

表3 推奨する「幸水」の新たな防除体系

散布時期	4月			5月		6月		7月		
	りん脱直前	開花直前	落花直後	落花10日後	下旬	上旬～中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
防除薬剤	IC ボルドー	ミギワ20 ユニックス DMI剤 ^(注)	カナメ DMI剤 ^(注)	デラン チウラム	デラン チウラム	ベルクート	QoI剤 (ストロビー スクレア他)	キャブレート ベルクート	有機銅	有機銅 オキシラン
対象病害	黒星 胴枯	黒星 赤星	黒星 赤星 心腐れ	黒星 赤星 心腐れ	黒星 心腐れ	黒星 輪紋 心腐れ	黒星 輪紋 胴枯 心腐れ	黒星 輪紋 胴枯 うどんこ	黒星 輪紋 胴枯 うどんこ	輪紋 黒星 胴枯

※防除薬剤欄の太字・下線は今回新たに推奨する殺菌剤を表す。対象病害欄のゴシックは防除重要病害を表す。
 注) DMI剤の単剤は使用せず、効果が期待できる他系統薬剤との混用または混合剤を使用する。DMI剤耐性菌の発生が懸念される圃場や地域では、別系統の殺菌剤であるミギワ20、ユニックス、カナメを使用する。

3 利用上の留意点

- (1) 黒星病の多発年は薬剤防除のみで被害を防ぐことは困難な場合があるため、落葉処理（除去、埋設、すき込み）等の耕種的対策を実施し、黒星病の発生しにくい圃場になるよう心掛ける。
- (2) ミギワ20フロアブル、カナメフロアブルはどちらも薬剤耐性の発達が懸念されている殺菌剤である。他系統の殺菌剤とのローテーションで使用し、同一系統の殺菌剤の使用は年2回以内となるよう留意する。
- (3) 農薬の使用にあたっては、農薬ラベルなどで登録の有無、使用時期などの最新情報を必ず確認し、使用者の責任において使用する。

4 普及技術の詳細

DMI剤に偏重しない日本なし「幸水」の新たな薬剤防除体系（令和7年度普及技術）の詳細については、QRコードから参照頂きたい。



ドローン散布による 穂いもちと斑点米カメムシ類 に対する防除効果

長野県農業試験場 中島宏和
阿曾和基

1. 穂いもち

水稻の生産現場では、産業用マルチローター（以下、ドローン）による薬剤の散布が急速に普及しているが、ドローン散布は作物や病害虫種によっては薬液の付着や防除効果が低下する恐れがある。また、ドローンは機種が多様であることから、機種によって散布特性が異なることが考えられる。そこで、農業現場で広く使用されているDJI社製の8枚羽ドローンであるMG-1と4枚羽ドローンであるT10を用いて、ドローン散布と地上散布の穂いもちに対する防除効果を比較すると共に、効果的な飛行方法を検討した内容について紹介する。

- (1) MG-1の薬剤散布の穂いもちに対する防除効果
 2021年～2023年に長野市のイネいもち病の常発ほ場で試験を行った。2021年はビームゾルを穂ばらみ期に1回散布、2022年はビームバリダゾルを穂ばら

み期と穂揃期に2回散布、2023年はブラシフロアブルを穂ばらみ期に1回散布した。本報告で紹介するドローン散布の薬剤の希釈倍数は8倍、散布液量は10aあたり0.8L、背負式動力噴霧器による地上散布の薬剤の希釈倍数は1,000倍、散布液量は10aあたり100L、ドローン散布、地上散布共に10aあたりの原液投下量は100mlである。ドローンのノズルは標準品を用い、散布はいずれもほぼ無風時に速度10～15km/h、作物上の高度2m、有効散布幅4mで散布した。各処理2～3反復、供試品種はコシヒカリである。

穂いもちの発生量が少～中発生条件下の3年間の試験を通じて、MG-1による薬剤散布は穂いもちに対して地上散布とほぼ同等～やや優る効果を示した（図1）。1回散布の2021年、2023年より2回散布の2022年で防除効果が高かった。

- (2) T10の飛行条件が薬液の落下分散と防除効果に与える影響

2024年に長野県中野市の葉いもちが自然発生した平坦地のほ場において、T10の飛行速度と飛行高度を変えた場合における薬液の落下分散と穂いもちの防除効果に与える影響を調査した。散布時は断続的に1.0～1.4m/sの横風（図2の+側から-側への風）

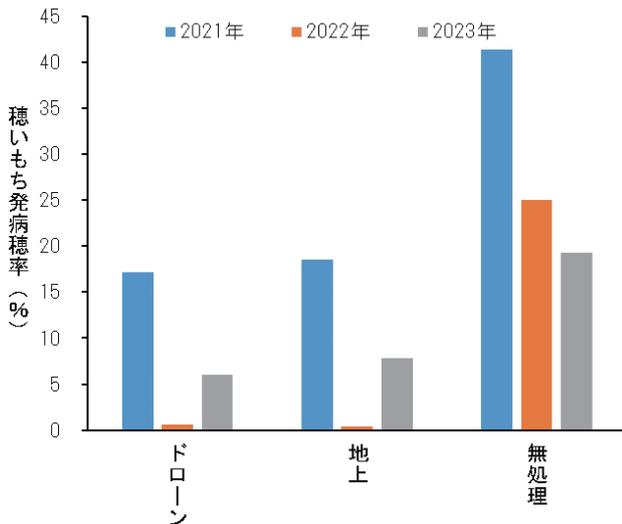


図1 MG-1の薬剤散布の穂いもちに対する防除効果

が吹いている条件での試験となった(図2)。速度10km/h・高度2m散布区では中央付近への薬液の到達が多く、局所的な散布となった。速度18km/h・高度3m散布区、速度10km/h・高度3m散布区、速度18km/h・高度2m散布区では広範囲に薬液が到達したが、風の影響により風下側の被覆面積率が高くなった。風の影響は高度3m散布区では大きかったが、高度2m散布区では比較的少なかった。穂いもちに対する防除効果は、局所的な散布となった速度10km/h・高度2m散布区で最も低く、速度18km/h・高度3m散布区、速度10km/h・高度3m散布区、速度18km/h・高度2m散布区で高くなり、特に速度18km/h・高度3m散布区が高かった(表

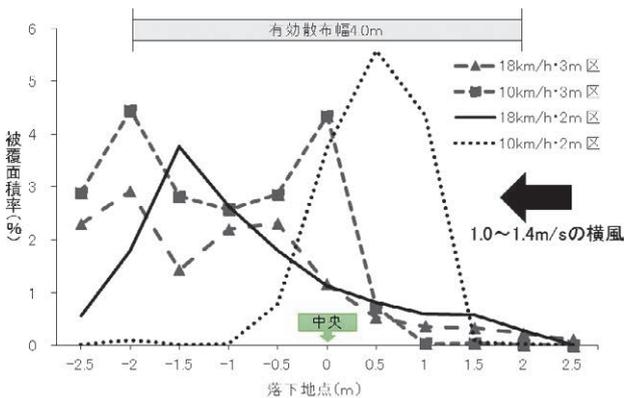


図2 T10の飛行条件が薬液の落下分散に与える影響

表1 T10の飛行条件による穂いもちに対する防除効果

穂いもち調査				散布時葉いもち調査	
飛行速度 (km/m)	飛行高度 (m)	被害率 (%)	防除価	発病株率 (%)	病斑数/株
18	3	0.9	83.8	85.0	3.2
10	3	1.7	67.6	100.0	5.3
18	2	1.8	65.7	100.0	5.5
10	2	2.8	47.6	100.0	5.3
無処理		5.3		97.5	4.6

1)。ただし、これは速度18km/h・高度3m散布区において葉いもちの発生量がやや少なかったことが影響していると考えられた。以上の結果から、広範囲に薬液を到達させ、風の影響が少ない散布方法として、速度18km/h・高度2m散布が有効であると考えられた。また、周辺に障害物があり、速度を上げにくいほ場又は、操縦に不慣れなオペレーターは、無風条件時に速度10km/h・高度3mでの散布が適すると考えられた。

2. 斑点米カメムシ類

本県の水稲栽培は、全国的にもトップクラスの一等米比率を誇っているが、斑点米カメムシ類による斑点米被害(着色粒)は1等米比率の主な低下要因となっており、斑点米対策は栽培上の重要事項となっている。「斑点米カメムシ類」は斑点米を生じさせるカメムシ類の総称であり、優占種や発生種は地域によって異なる。近年はアカスジカスミカメによる斑点米被害が問題となっており、これらカスミカメ類を含む斑点米カメムシ類の防除にドローンの活用が期待されていることから、アカスジカスミカメ優占地域において、ドローンを用いた防除試験を実施した。

試験は2023年~2024年に小布施町の現地ほ場で実施し、T10(DJI社製)を用いた。

2023年はアカスジカスミカメが中発生の条件下で、散布は出穂期17日後に実施した。結果は図3のとおりで、ドローンによるスタークル液剤10及びキラップフロアブル散布は、スタークル液剤10の背負式動力噴霧器による散布と比較して、優る又は同等の防除効果が認められた。また、無処理区では2等米相当の斑点米が発生したが、ドローン処理区では1等米基準の0.1%以下に斑点米率を抑制した。

2024年の試験はアカスジカスミカメ中発生、アカヒゲホソミドリカスミカメ少発生の条件下で、散布は出穂期12日後に実施した。結果は図4のとおりで、ドローンによるスタークル液剤10散布は、対照の同剤の背負式動力噴霧器による散布と比較して同等の防除効果、ドローンによるキラップフロアブル散布は対照と比較して防除効果はやや劣ったものの防除効果は認められた。また、無処理区では2等米相当の斑点米率であったが、ドローン処理区では1等米基準の0.1%以下に斑点米率を抑制した。

これらの結果から、アカスジカスミカメが優占する条件下におけるドローンによるスタークル液剤10及びキラップフロアブル散布は、十分な防除効果が得られると考えられることから、本県における実用性は高いと考えられた。

ただし、稲株の草冠部と株元の薬剤付着量を調査したところ、株元では草冠部と比較して薬剤付着量が少ない傾向が認められた(データ省略)。例えば、イネウンカ類においては株元への薬剤付着量が防除効果に影響するとされていることから、ドローン散布による病害虫防除にあたっては、作物・病害虫毎に防除効果を評価することが望ましいと考えられる。

なお、現在、斑点米カメムシ類のうち、大型のクモヘリカメムシ等が優占する地域におけるドローンの防除効果についても検討を進めており、2025年の試験では、エクシードフロアブル、キラップフロアブル、スタークル液剤10のドローン散布は十分な防除効果を有することを確認しており、来年度も引き続き防除試験を実施する予定としている。

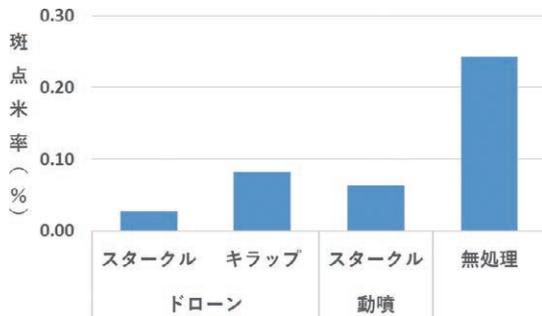


図3 ドローン散布による斑点米抑制効果(2023年)

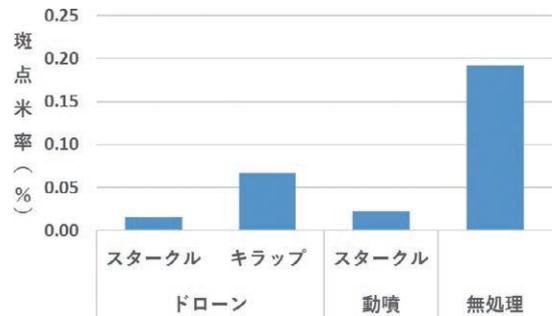


図4 ドローン散布による斑点米抑制効果(2024年)

植防短信

長野県農薬安全コンサルタント協会 総会開催される

(一社)日本植物防疫協会主催の研修を終了した者で組織する長野県農薬安全コンサルタント協会(会長 廣田圭亮:会員数73名・長野県農薬卸商業協同組合の内部組織)の平成8年度(第47回)通常総会が1月20日に長野市で開催されました。

総会に先立ち、長野県農政部園芸畜産課の酒井翔平技師による「長野県オリジナル品種等の拡大」をテーマとした研修が行われ、オリジナル品種の果樹野菜の生産状況や振興方針について解りやすく、興味深い説明がありました。実需者が求めるポイントとして、野菜は「品目の安定した品質と収量」であ

るのに対し、果実は「品種の安定供給(+知名度)」であるとの説明がありました。

その後、指導農薬研修会では、OATアグリオ株式会社の田中秀典様による「パラコート剤の安全使用について」と題して説明がありました。農薬中毒事故の重大要因である「誤飲・誤食」を防ぐためには、絶対にペットボトル等の飲料の空容器に農薬を移し替えない、カギのかかる保管庫に保管することを理解しました。また、プリグロックスLの特徴と安全使用の基本ルール(1.登録農薬を使いましょう。2.農薬使用基準を守りましょう。3.正しい装備を着用しましょう。)を身につけることができました。

引き続き総会が開催され、令和7年度事業報告並びに決算、令和8年度事業計画並びに収支予算書等が承認されました。

(長野県農薬卸商業協同組合 近藤弘利)

地域情報

トルコギキョウ立枯病発生実態

1 はじめに

トルコギキョウの生産量を維持拡大していくためには、全県で問題となっている立枯病によるロス率を減らす必要がある。そこで、生産者の栽培管理や

立枯病の発生率を数値として把握するため、全農長野、JA松本ハイランド、JAあづみと連携してアンケート調査を実施した。

2 立枯病サンプリング調査による菌種の同定

5~6月は、季咲作型における立枯病の発生が多くみる時期となる。そこで、事前に野菜花き試験場と協議し、サンプリングによる立枯病の同定を依頼した。その結果、症状の出ていた5圃場全てでFusarium oxysporumが検出され、確かに立枯病であ

ることが明らかとなった。

3 アンケート調査について

4月にアンケート調査の様式を作成し、農協技術員の協力により、管内のトルコギキョウ栽培者へアンケート調査を開始した。12戸のアンケート結果が集まり、土壌消毒の実施有無、薬剤の種類や実施時期、品種別の立枯病発生率の傾向などが明らかとなった。農協技術員から土壌消毒の実施を促し、古い被覆資材を使用している圃場では気密性の高い資材を紹介し、翌年作に向けた土壌消毒では、数軒の農家が効果的な土壌消毒方法に取り組んだ。



立枯病の発生状況

4 今後の課題

アンケート調査を行うことで、一人ひとりの生産者の栽培管理が見える化し、技術員が対策を指導しやすくなった。令和8年度もアンケート調査を継続し、土壌消毒を改善した圃場の立枯病発生割合を評価し、効果の検証を行っていく予定である。

(松本農業農村支援センター 三宅明子)

水稻乾田直播栽培*における 除草体系の検証を行いました。

*播種約1か月後に入水し、湛水する栽培方法

水稻の規模拡大へ対応する手段として直播栽培があります。そのうち、乾田直播栽培は湛水しない乾

田期間があることから、畑地雑草の防除に失敗する事例が見られます。乾田直播栽培では、移植栽培で一般的に使用する一発処理剤等の省力的な薬剤が使用できず、体系処理が基本となります。

北アルプス地域では、令和7年度が乾田直播栽培は初の取組みとなり、大規模経営体を対象に、関係機関と連携して現地適応性の検証を行いました。

今回の試験では、乾田期間中に播種後の土壌処理剤と茎葉処理剤を各1回、入水後に水稻中後期剤を1回施用する3回の体系処理について現地適応性を検証しました。播種3日後に「トレファノサイド乳剤」を、雑草の生育に合せ6月上旬に「ノミニー液剤」をハイクリブームで施用しました。入水し2週間程が経過した時期にほ場の日減水深が1センチ程度であることを確認したのち、「ツイゲキ1キロ粒剤」を動力散布機で施用しました。乾田期間中の土壌処理剤と茎葉処理剤の効果は十分でした。また、入水によりその後の畑地雑草の生育は抑制され、水田雑草は中後期剤の施用により防除できたことで雑草の生育は問題ない結果となりました。

近隣地域を含む生産者やJA等の関係機関を参集し、令和7年7月にはほ場の巡回を、令和8年2月には検討会を開催し、情報共有を図りました。

(北アルプス農業農村支援センター 青木剛司)



協会だより

●令和8年版 「長野県農作物病害虫・雑草防除基準」販売中

【900円（消費税込み、送料別途）】

問い合わせ・ご注文先

(一社)長野県植物防疫協会 <https://nagano-ppa.jp/bojokijun.html>

【行事】

2月3、4日 試験研究推進会議病虫部会（長野市）
2月10日 令和8年度農薬等展示ほ設置打合せ
会議（長野市）
2月13、17日 農薬管理指導士更新研修会（Web）
2月18日 第2回普及技術検討会（塩尻市）

2月19、20日 農薬管理指導士養成研修会及び認定
試験（塩尻市）
2月24日 病害虫防除研修会（松本市）

「ながの植物防疫」はホームページでもご覧になれます。

URL <https://www.nagano-ppa.jp/>